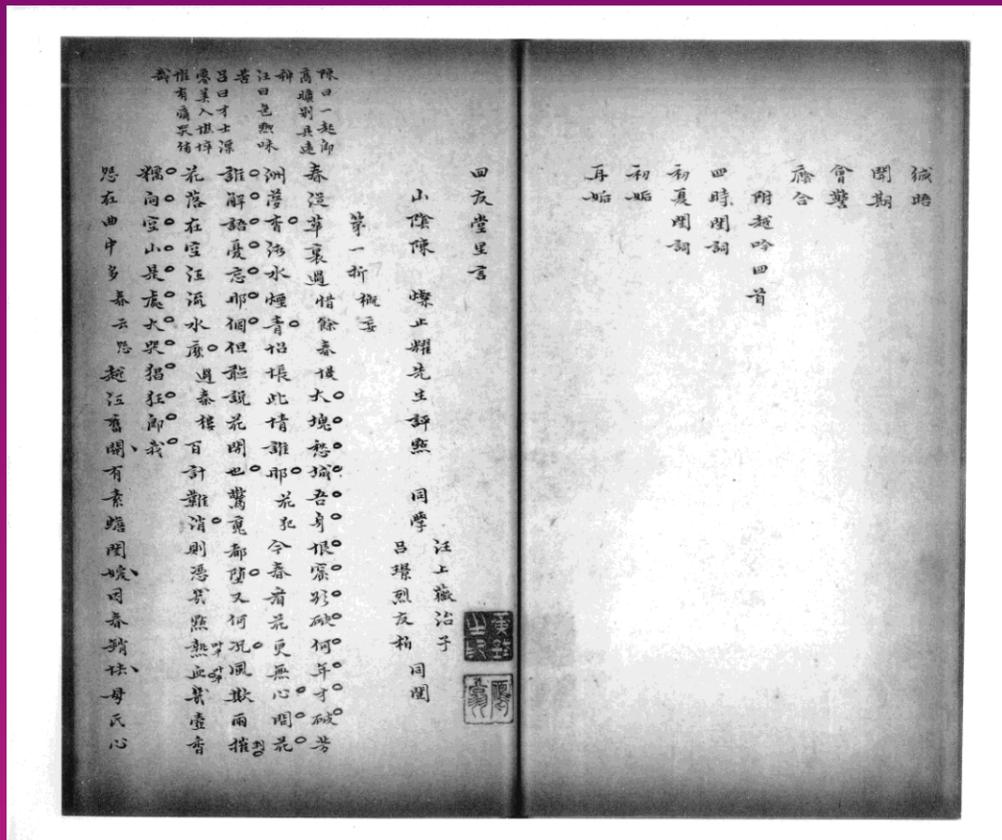


〈東文研・ASNET共催セミナー〉

静嘉堂文庫所蔵珍本

『痛思堂日記』考

Study on "Tong Si Tang Diary" collected in Seikado Bunko



『四友堂里言』の扉、及び静嘉堂文庫の外観

静嘉堂文庫所蔵珍本『痛思堂日記』は清代の黄鉞によって著された作品である。黄鉞の生い立ちは不詳であり、作品に言及した研究は非常に少ない。この日記に基づけば簡単な生い立ちの考察が可能だろう。その中に収録されているもののうち、作者の晩年の手稿本『四友堂里言』伝奇は、静嘉堂文庫に所蔵されている戯曲の中で最も貴重なものであり、中国の呉曉鈴氏旧蔵本と異なっている。テキストの内容とコメントにおいて修正があり、ここからまた黄鉞の晩年の思想の変化が見られるだろう。

◆ 日時： 2017年6月15日(木) 17:00-18:00

◆ 報告者： 張詩洋氏(東京大学東洋文化研究所・訪問研究員)

◆ コメント： 大木康氏(東京大学東洋文化研究所・教授)

◆ 会場： 東京大学 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は中国語で行われます(通訳付き)。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネット
ワーク
Network for Education and Research on Asia

